



冬のボーナスカットを許さないぞ！シリーズ⑪

年末手当は満額支給せよ！

2020年度年末手当第1回団体交渉

2020年度年末手当第1回団体交渉が10月22日、行われました。JR東海労と会社の考え方は、真っ向から対立しました。以下、主な主張点です。

JR東海労の主張

- ★無駄な投資とも言えるリニア建設の続行や株主配当の増額はもとより、役員報酬のほんの僅かな減額などその「覚悟」の程はしれている。
- ★コロナ禍の中で、社員は感染に怯えながら何ら平素と変わることなく業務を遂行し、安全安定輸送を担ってきた。社員への赤字のしわ寄せを断じて許さない。
- ★この間の社員の苦労によって積み上げられてきた多大な内部留保金がある。

会社の主張

- ▲第1四半期において734億円の営業損失を計上。新型コロナウイルス感染症の影響により、かつて経験したことのない大変厳しい状況。
- ▲全ての企業規模において景況感が大きくマイナスになっている。今後についても、厳しい経営環境が続くことを覚悟しておく必要がある。
- ▲すでに、冬季賞与を大幅に下げる、あるいは支給しないことを発表している企業が多く存在する。
- ▲世間相場や社員の生活なども考慮するという当社の賃金決定の基本的な考え方に則る。

**JR東海労はコロナ禍を理由に労働者へ
我慢と犠牲を強いる会社を許しません！**